



S.Setoguchi

## THE KYOTO HIGH-JUMP

## 第27回 京都ハイジャンプ (J・GII)

1着 2着 3着 4着 5着  
本賞 45,000,000円 18,000,000円 11,000,000円 6,800,000円 4,500,000円  
付加賞 350,000円 100,000円 50,000円



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 4歳59<sup>kg</sup>、5歳以上60<sup>kg</sup>、牝馬2<sup>kg</sup>減、J・G I競走1着馬2<sup>kg</sup>増、J・G II競走1着馬1<sup>kg</sup>増

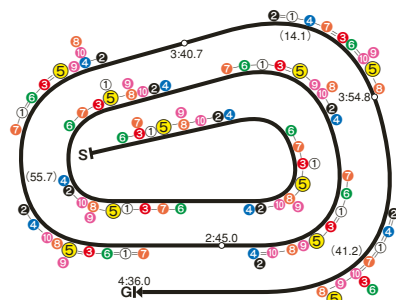
2025.5.17 京都 曇・不良 芝3930m (混合)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	⑤	アंकフルブラック	牡	5	60	高田 潤	4:36.0	5-6-2-2	14.0	478(-4)	2.0①	高橋 亮(栗東)
2	⑧	レッドパロッサ	騾	6	60	小牧加矢太	7	4-2-1-1	14.1	510(-6)	4.1②	佐藤悠太(栗東)
3	③	メイショウアツイタ	牡	7	60	難波剛健	5	7-7-6-4	14.1	514(+12)	12.4⑤	高橋義忠(栗東)
4	⑥	ブリヨンカズマ	牡	6	60	伴 啓太	3½	8-8-5-4	14.2	518(-8)	21.2⑥	高橋文雅(美浦)
5	⑩	アサクサゲンキ	騾	10	60	小坂忠士	2	3-2-3-4	14.2	474(-4)	6.3③	四位洋文(栗東)
6	⑨	ケンアンビシャス	牡	7	60	草野太郎	½	5-5-3-3	14.2	482(+6)	24.8⑧	久保田貴士(美浦)
7	⑦	クラブサンダー	牡	6	60	黒岩 悠	10	10-10-7-7	14.3	476(+12)	63.7⑨	牧田和弥(栗東)
8	①	ラエール	牝	6	58	上野 翔	大差	9-9-9-8	14.5	420(-8)	97.9⑩	土田 稔(美浦)
9	②	トーアモルベウス	騾	5	60	石神深一	大差	1-1-10-10	14.8	492(+4)	21.5⑦	辻 哲英(美浦)
10	④	ウイングランブラー	牡	5	60	大江原圭	大差	2-2-8-9	15.1	464(-4)	8.9④	深山雅史(美浦)

単勝⑥200円(1½) 複勝⑤110円(1½) ⑧140円(2½) ③230円(5½) 枠連⑤-⑦380円(1½)

馬連⑤-⑧380円(1½) ワイド⑤-⑧200円(1½) ③-⑤590円(6½) ③-⑧750円(11½)

馬単⑤-⑧590円(1½) 3連複③-⑤-⑧1,860円(6½) 3連単⑤-⑧-④4,860円(9½)



上り1マイル: 1:51.0

上り: 800<sup>kg</sup> 600<sup>kg</sup>  
55.3 - 41.2

### アラカルト

- ・高田潤騎手はニホンピロバロンで制した16年に続く京都ハイジャンプ4勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算25勝目
- ・高橋亮調教師は京都ハイジャンプ初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算4勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算21勝目
- ・5歳馬の勝利は21年マーニに続く通算5回目

# アンクルブラック Uncle Black

牡 黒鹿毛 2020.4.28生  
北海道日高町 竹島幸治氏生産  
馬主・塚本能交氏 栗東・高橋亮厩舎  
馬名意味・冠名+父名の一部

ボーサーCAN系 F13-a

キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー オトメゴコロ
ウインクルキラリ 栗毛 2010	ダンスインザダーク 鹿毛 1993	サンデーサイレンスUSA ダンシングキイUSA
	ウインクルグラス 黒鹿毛 2002	グラスワンダーUSA ボーサーCAN

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M3 Lyphard S5×S5

## INTERVIEW

竹島幸治氏(生産者)

### ドキドキしながらレースを見ました

生産馬が障害競走に出走したことがほとんどないので、手に汗握りドキドキしながらレースを見ました。無事にゴールしてくれてとにかく安心しました。生まれた時から雰囲気のある馬で、父馬に似て脚長ですとした体形でした。160センチぐらいの麦稈(ばっかん)ロールに前脚をのせて後ろ二本脚で立つことが好きで、頻繁にやっていたことをレース後に思い出しました。

N.Inaba



三段跳びが名物の大障害コースを舞台に争われる京都ハイジャンプは春の最高峰、中山グランドジャンプへの参戦を見送ってこちらに照準を定めてきた面々が中心勢力を形成。なかでもオープン戦を連勝中のアンクルブラックが断然の支持を集め、前走の三木ホースランドパークジャンプSでオープン2勝目を挙げたレッドバロツサ、障害重賞2勝の実績を誇る古豪アサクサゲンキがこれに続く存在と目された。結果はアンクルブラックが7馬身差で圧勝。障害界の新星に名乗りをあげた。先遣役を務めたのは入障2戦目の未勝利戦を逃げ切り、重賞へ駒を進めてきたウインングランブル。アサクサゲンキは、3、4コーナーの最終障害を飛越後、本格的にスパート。手心え通りの末脚を発揮したアンクルブラックがレッドバロツサを呑み込んで突き放し、ワンサイドの勝利を飾った。

平地時代は未勝利戦の1勝に終わった本馬は昨春、障害へ転向し3戦目に初勝利。昇級後の2戦はともに3着と足踏みを続けたものの、今年1月、小倉のオープン戦をクビ差で競り勝って上昇気流に乗った。続くオープン戦は5馬身差、この日は7馬身差で大勝利、重賞初制覇を達成。5歳を迎えて本格化、それも一戦ごとに地力を強化している印象だけに、同じキタサンブラック産駒のエコロデュエルをはじめ、さらなる強敵との対決に期待が膨らむ。

### 父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>2回、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、大坂杯<sup>G1</sup>、京都市大賞典<sup>G2</sup>、スプリングS<sup>G2</sup>)、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用〔代表産駒〕イクイノックス(ジャパンC<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>2回、宝塚記念<sup>G1</sup>、ドバイシーマクラシック・首<sup>G1</sup>、東京スポーツ杯2歳S<sup>G2</sup>)、ソールオリエン(皐月賞<sup>G1</sup>、京成杯<sup>G2</sup>)、クロウデュノール(ホープフルS<sup>G1</sup>、東京スポーツ杯2歳S<sup>G2</sup>)、ウィルソンテソーロ(JBCクラシックJ<sup>G1</sup>、白山大賞典J<sup>G2</sup>、マーキュリーC<sup>G2</sup>Ⅲ、かきつばた記念J<sup>G2</sup>Ⅲ)、ガイアフォース(セントライト記念<sup>G2</sup>)、スキルヴィング(青葉賞<sup>G2</sup>)、クリスマスバレード(紫苑S<sup>G2</sup>)、ピコチャンブラック(スプリングS<sup>G2</sup>)、ラヴェル(アルテミスS<sup>G2</sup>)、アドマイヤマツリ(福島牝馬S<sup>G2</sup>)、サトノカルナバル(函館2歳S<sup>G2</sup>)、エコロデュエル(中山グランドジャンプJ<sup>G1</sup>)、アンクルブラック(本馬)

### 母ウインクルキラリ

北海道新ひだか町 安田豊重氏生産 中央31戦2勝。24年用途変更  
アンクルダッシュ(18 牡父ハービンジャーGB)中央6戦0勝、地方48戦3勝  
アンクルブラック 本馬(20 牡父キタサンブラック)中央11戦1勝、障害8戦4勝(京都ハイジャンプJ<sup>G2</sup>) 獲得総賞金103,007,000円  
アンクルクロス(21 牡父タリスマニックGB)中央17戦3勝(あざみ賞)※19、22(前年種付せず)、23(不受胎)

### 祖母ウインクルグラス

北海道門別町 日高大洋牧場生産 中央1勝。22年用途変更  
ウインクルキラリ(10 前出)  
ウインクルスーパー(13 牡父アンクルスーパー)中央1勝  
ウインクルチェリー(14 牡父サマーバードUSA)中央2勝、地方0勝

### 曾祖母ボーサーCAN

北米3勝(イヤリングセールズS2着)、95年輸入、07年用途変更  
ウインクルグラス(02 前出)  
タガノシュペリエル(06 牝父ワイルドラッシュUSA)中央2勝(妙高特別)、障害0勝、地方5勝

### 四代母パシフィックプリンセス Pacific Princess

アメリカ産 北米7勝(デラウェアオークス<sup>G1</sup>、ヘムステッドH<sup>G2</sup>、メイトロンS<sup>G1</sup>2着、マスケットH<sup>G2</sup>2着、ガゼルH<sup>G2</sup>2着)、ナリタブライアン(日本ダービー<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>)、ヒフハヤヒデ(菊花賞<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>、宝塚記念<sup>G1</sup>)、キズナ(日本ダービー<sup>G1</sup>)の祖母

## 一戦ごとに地力を強化し圧勝の重賞制覇

三段跳びが名物の大障害コースを舞台に争われる京都ハイジャンプは春の最高峰、中山グランドジャンプへの参戦を見送ってこちらに照準を定めてきた面々が中心勢力を形成。なかでもオープン戦を連勝中のアンクルブラックが断然の支持を集め、前走の三木ホースランドパークジャンプSでオープン2勝目を挙げたレッドバロツサ、障害重賞2勝の実績を誇る古豪アサクサゲンキがこれに続く存在と目された。結果はアンクルブラックが7馬身差で圧勝。障害界の新星に名乗りをあげた。先遣役を務めたのは入障2戦目の未勝利戦を逃げ切り、重賞へ駒を進めてきたウインングランブル。アサクサゲンキは、3、4コーナーの最終障害を飛越後、2番手のトーアモルベウスが逃げ馬をかわずと、後続も追撃を開始。向正面ではアサクサゲンキとレッドバロツサが並んで先頭に立ち、このうちレッドバロツサが3コーナーからリードを広げにかかる。しかし楽な手心えをキープしてその背後に迫った高田騎手は、3、4コーナーの最終障害を飛越後、本格的にスパート。手心え通りの末脚を発揮したアンクルブラックがレッドバロツサを呑み込んで突き放し、ワンサイドの勝利を飾った。

三段跳びが名物の大障害コースを舞台に争われる京都ハイジャンプは春の最高峰、中山グランドジャンプへの参戦を見送ってこちらに照準を定めてきた面々が中心勢力を形成。なかでもオープン戦を連勝中のアンクルブラックが断然の支持を集め、前走の三木ホースランドパークジャンプSでオープン2勝目を挙げたレッドバロツサ、障害重賞2勝の実績を誇る古豪アサクサゲンキがこれに続く存在と目された。結果はアンクルブラックが7馬身差で圧勝。障害界の新星に名乗りをあげた。先遣役を務めたのは入障2戦目の未勝利戦を逃げ切り、重賞へ駒を進めてきたウインングランブル。アサクサゲンキは、3、4コーナーの最終障害を飛越後、2番手のトーアモルベウスが逃げ馬をかわずと、後続も追撃を開始。向正面ではアサクサゲンキとレッドバロツサが並んで先頭に立ち、このうちレッドバロツサが3コーナーからリードを広げにかかる。しかし楽な手心えをキープしてその背後に迫った高田騎手は、3、4コーナーの最終障害を飛越後、本格的にスパート。手心え通りの末脚を発揮したアンクルブラックがレッドバロツサを呑み込んで突き放し、ワンサイドの勝利を飾った。